都市部の青少年に対する効果的な体験活動の提供に関するモデルプログラム開発事業

体験の風を おこそう

平成29年3月

National Institution For Youth Education
国立青少年教育振興機構
都市部の青少年に対する効果的な体験活動の提供に関するモデルプログラム開発事業

(1) 背景及び事業の趣旨
今日、青少年の日常的体験の場や機会が減少しており、このことによる青少年の様々な体験活動の不足が持続的に増大している。特に、体験については、昭和61年頃より長期にわたり低下傾向が続いています。従って、子供達は生まれてから発達段階に至って家庭や地域の内で様々な体験をしながら成長してきましたが、社会の急速な変化の中でこのような機会や機会が減少している今日においては、各地域において大人が関与し、意図的・計画的に体験の機会や場を設定すること、すなわち、日々の取組における青少年の様々な体験活動の充実が求められています。このような観点から平成22年から「体験の風をこうそう運動」がスタートしています。
本事業はこのような趣旨を踏まえ、都市部の青少年がより利用しやすい近隣のフィールドで非日常的な体験をするためにこれを非日常的な活動につなげていくこと（例えば、野外活動の体験がその後の家庭でのお手伝い等のきっかけとなる）を目指したモデルプログラムの開発を目的として平成27年度から実施しており、今年度では2年目の試行として取り組みました。

(2) 仮説及び期待される効果
自然体験への参加経験が少ない青少年や保護者に、非日常的な自然体験活動事業への参加を促すためには、様々な不安を軽減することが重要です。また、今回の事業においては次のような仮説のもとに、プログラムを企画しました。
仮説1：都市部の青少年の生活環境に身近な大学キャンパスを活動場所として活用することで、参加者及び保護者の不安を軽減される。
仮説2：参加者、保護者、スタッフ間での情報共有を深めることで、参加者及び保護者の不安が軽減される。また、保護者がプログラムに関わる機会を設定することで、保護者だけでなく、親子で体験活動を身近に感じることができるようになる。
仮説3：短期間に3回のプログラムを設定することで、非日常（プログラム）での体験が日常（家庭）での生活の様子（手伝いや生活習慣などの定着）につながる、その効果をもって、日常、非日常を共通する「モノ」（食器や道具等）活用する。

(3) 「チャレンジ！はじめてのキャンプ」の概要
①プログラムの趣旨
都市部の小学校中学生の児童を対象に、身近な自然の中で体験活動を提供することによって、自然をより身近に感じさせ、そこで体験したことを日常生活において定着できるようにする。また、事業後の自然生活における、様々な体験に対する意識を高めるモデルプログラムの開発を目的として実施する。
②主催 国立青少年教育振興機構
③後援 京都教育委員会
④協力 国立大学法人京都教育大学
⑤日時及び会場
第1回 ～キャンプってどんなもの？～
　平成28年11月5日（土）～6日（日）[1泊2日]
第2回 ～大自然を感じよう～
　平成28年11月19日（土）～20日（日）[1泊2日]
第3回 ～仲間と一緒にチャレンジしよう～
　平成28年12月3日（土）～4日（日）[1泊2日]
会場：京小「山の家」
⑥参加者
平成28年度11月5日（土）～6日（日）[1泊2日]
　参加者数 45名※参加者2名はキャンセル
　合計 43名

(i) 学年×性別

<table>
<thead>
<tr>
<th>学年</th>
<th>男</th>
<th>女</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>4年生</td>
<td>10</td>
<td>6</td>
<td>16</td>
</tr>
<tr>
<td>3年生</td>
<td>14</td>
<td>15</td>
<td>29</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>24</td>
<td>21</td>
<td>45</td>
</tr>
</tbody>
</table>

(ii) これまでのキャンプ経験×性別

<table>
<thead>
<tr>
<th>経験</th>
<th>男</th>
<th>女</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>未経験</td>
<td>13</td>
<td>17</td>
<td>30</td>
</tr>
<tr>
<td>1～2回</td>
<td>10</td>
<td>3</td>
<td>13</td>
</tr>
<tr>
<td>それ以上</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>2</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>24</td>
<td>21</td>
<td>45</td>
</tr>
</tbody>
</table>

(4) 広報
①GoGo土曜9-10月号（京都府内の全小学生に配布）に掲載
②京都府内の小学校1校にチラシを配布

(5) 組織

【プログラムチーム】
国立青少年教育振興機構
・プログラムの企画及び運営
・プログラムの進行及び指導

【マネジメントチーム】
国立青少年教育振興機構
・マネジメントの作業
・参加者のグループについてのサポート
・1グループに主の2名と次に2名配置

【プログラムスタッフ】
国立青少年教育振興機構
・マネジメントの作業

【班付きリーダー】
学生ボランティア
・班のリーダーの作業

【マネジメントスタッフ】
国立青少年教育振興機構
・マネジメントの作業

参加者（小学校3～4年生、45名） 5グループで活動（1グループ9名：男女混成グループ）
モデルプログラム全体像

第1回 ～キャンプってどんなもの？～
平成28年11月5日（土）～6日（日） [1泊2日]
会場：京都教育大学

<table>
<thead>
<tr>
<th>日目</th>
<th>11月5日</th>
<th>土</th>
<th>朝食</th>
<th>受付</th>
<th>はじめての会</th>
<th>食事</th>
<th>食事</th>
<th>テント作りにチャレンジ！</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>11月6日</td>
<td>日</td>
<td>朝食</td>
<td>受付</td>
<td>はじめての会</td>
<td>食事</td>
<td>食事</td>
<td>テント作りにチャレンジ！</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

第2回 ～大自然を感じよう！～
平成28年11月19日（土）～20日（日） [1泊2日]
会場：京小「山の家」

<table>
<thead>
<tr>
<th>日目</th>
<th>11月19日</th>
<th>土</th>
<th>朝食</th>
<th>受付</th>
<th>はじめての会</th>
<th>食事</th>
<th>食事</th>
<th>パーティの計画を立てよう！</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>11月20日</td>
<td>日</td>
<td>朝食</td>
<td>受付</td>
<td>はじめての会</td>
<td>食事</td>
<td>食事</td>
<td>パーティの計画を立てよう！</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

第3回 ～仲間と一緒にチャレンジしよう！～
平成28年12月3日（土）～4日（日） [1泊2日]
会場：京小「山の家」京都教育大学

<table>
<thead>
<tr>
<th>日目</th>
<th>12月3日</th>
<th>土</th>
<th>朝食</th>
<th>受付</th>
<th>はじめての会</th>
<th>食事</th>
<th>食事</th>
<th>パーティの計画を立てよう！</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>12月4日</td>
<td>日</td>
<td>朝食</td>
<td>受付</td>
<td>はじめての会</td>
<td>食事</td>
<td>食事</td>
<td>パーティの計画を立てよう！</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

保護者アシスタントより

- 参加者にあわせ初めのことを不安や疲れたことがあるので、特に初めの会で休憩して安心に努めます。参加者が安心できる環境を整えることが大切です。

保険有無 muscular

- 保護者アシスタントより

- バーベキューの後も、遊んだ後も体調を整え、健康に努めます。

保険有無 muscular

- 各キャンプ後、キャンプの準備をする時間は、日常生活を再開する前に休息する時間として設定しました。参加者の食事は、健康に配慮し、バランスがとれた食事を提供しました。

保険有無 muscular

- 各キャンプ後、キャンプの準備をする時間は、日常生活を再開する前に休息する時間として設定しました。参加者の食事は、健康に配慮し、バランスがとれた食事を提供しました。

保険有無 muscular

- 各キャンプ後、キャンプの準備をする時間は、日常生活を再開する前に休息する時間として設定しました。参加者の食事は、健康に配慮し、バランスがとれた食事を提供しました。

保険有無 muscular
<table>
<thead>
<tr>
<th>時間</th>
<th>内容</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>10:00</td>
<td>はじめましての会</td>
</tr>
<tr>
<td>10:30</td>
<td>仲間のことを知ろう！ プロジェクト説明会</td>
</tr>
<tr>
<td>12:00</td>
<td>みんなでお昼ご飯を食べよう！</td>
</tr>
<tr>
<td>13:00</td>
<td>①キャンパスでチャレンジ！</td>
</tr>
<tr>
<td>15:00</td>
<td>②キャンパスでチャレンジ！ Ⅰ トレーニング</td>
</tr>
<tr>
<td>19:00</td>
<td>みんなで話題に行こう！</td>
</tr>
<tr>
<td>21:00</td>
<td>おやすみなさいの準備/テントで就寝</td>
</tr>
</tbody>
</table>

工事したポイント
1. 事前によく手書きの手紙を同封した。
2. 保護者の不安を軽減し、体験活動への理解を深めるために保護者説明会を実施した。特に、「参加者の準備物について詳しく説明し、質疑応答の時間を設けた。」
3. 日常生活環境で身近な大学の敷地内でテント泊ができるようにした。
4. 自然の中で実施する第2回キャンプに向けて、野外炊事、テント張りの練習を取り入れた。
5. 野外炊事では、旅行用の简易食や多くの火おこしや簡単な調理から始めて行いました。
6. 第2回キャンプで行う野外炊事に向け、家庭で練習できるよう体験を積ん。。

参加者のアンケートより
1. 第1回キャンプ（身边の自然体験）のキャンプはどうだったか？（保護者）
   ・笑顔が Brilliant。特に野外炊事が楽しみで、 deze も含めて黒いことが少ないなかった。
   ・水はいつも元気、料理も美味しくてもっと楽しいキャンプにいきたい。
   ・油は自分たちで作れるのが初めてで、楽しくてワクワクした。
   ・ gebruik を使用するときは両方。
   ・みんなと仲良くことができた。
2. 第1回キャンプ後の皆さんの相談がいかがですか？（保護者）
   ・キャンプに参加しての役立つことが見えてきたことに気付いた。
   ・以前よりも学校で築き上げたノリに向けて向かうことができるということ。
   ・相互の理解を深めることが大切と感じた。
3. 自分の体験を写真で残すことが大切かと思う。キャリアの写真を残すことを強く望んでいる。

【保護者のキャンプに対する不安を軽減させる工夫】
キャンプへ参加するにあたり、保護者と保護者の不安を軽減するために、事前にキャンプの全体計画や持ち物の一覧表を用意し、スケジュールを手書きのお知らせを添付しました。
事前に保護者に「参加者の注意事項と検査シート」を作成し、参加者のキャンプ後の日程等を保護者に報告しました。
インターネット（今回は Facebook）を用いてキャンプの状況を公開しました。
プログラム報告②

第２回 ～大自然を感じよう！～

1日目
天候：晴れ
活動場所：京小山の家

<table>
<thead>
<tr>
<th>時間</th>
<th>内容</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>9:00</td>
<td>京都駅に集合！</td>
</tr>
<tr>
<td>11:00</td>
<td>お久しぶりの会</td>
</tr>
</tbody>
</table>
| 11:30 | ①自然のリフレッシュ \( 
②お午前のおきあじ |
12:00 | ③お昼ごはんを作ろう！ |
| 自由時間 | |
| 15:00 | ④大好きな好きなおやつを食べよう！ |
| 18:00 | ⑤ドラマ映画観る |
| 19:00 | ⑥デイリーの計画を立てよう！ |
| 21:00 | おやすみなさいの準備／テントで就寝 |

エコポイント

1. ドラマ映画観やハイキングなど大自然を活用したプログラムを計画しました。
2. 第1回キャンプで体験したテント設営や野外炊事に関する知識・技術をより深めることのできるプログラムを計画しました。
3. 第2回キャンプは家庭で遊ばれた囲炉裏と料理、気候・自然の美しさに感動するような活動を計画しました。
4. 調理に慣れてきた4回目の野外炊事から魚の味付けの深い「新割り」も導入しました。

第2日目
天候：晴れ
活動場所：京小山の家

<table>
<thead>
<tr>
<th>時間</th>
<th>内容</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>6:30</td>
<td>起床</td>
</tr>
<tr>
<td>7:00</td>
<td>①朝のつどい</td>
</tr>
<tr>
<td>7:15</td>
<td>お食い初めお豆浆お弁当を作ろう！</td>
</tr>
<tr>
<td>10:00</td>
<td>朝食を終わりにちよう！（帰郷）</td>
</tr>
<tr>
<td>11:00</td>
<td>⑥海の美味を見に行こう！（ハイキング）</td>
</tr>
<tr>
<td>14:00</td>
<td>お昼ごはんを作りましょう！</td>
</tr>
<tr>
<td>16:00</td>
<td>解散</td>
</tr>
</tbody>
</table>

「はじめの野外炊事に対する指導の工夫」

包丁を使ったことがない、料理をしたことがない参加者にとっては、「火を通す」、「鰻の割り」など野外炊事特有のスキルは自らの習得が必要があります。また、食材と料理をする楽しみや自分たちで作った料理の美味しさ、自然と食べる美味しさを感じてもらえるよう、「野外炊事（調理方法）の説明やメニューなどをわかりやすく、細かく説明しました。

実際の導入に使用した鉄造釜4枚

参加者のアンケート結果

①第2回キャンプ（大規模の田山へのキャンプ）はどうだった？特に心に残っていることは？（参加者）
- 大自然が広い気がするという人が多かった。
- 森は大きいくらいだった。
- ハイキングが良かった。
- みんなでお笑いを作れた。
- 木を切ること（新割り）が心に残っている。切るのが楽しかった。

②第2回キャンプ後のお子様の様子はいかがですか？（保護者）
- キャンプ後、学校やお世話になった人に感謝している姿が多く見られました。自然環境がよく似ていること。自分のことから自分で考えられるよう、自分の手をやるきっかけが得られました。
プログラム報告③

第3回 ～仲間と一緒にチャレンジしよう！～

平成26年12月3日（土）～4日（日） [1泊2日]

1日目 天候：晴れ 活動場所：京小山の家

<table>
<thead>
<tr>
<th>時間</th>
<th>内容</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>9:00</td>
<td>京都駅に集合！</td>
</tr>
<tr>
<td>12:00</td>
<td>買い物に行こう！</td>
</tr>
<tr>
<td>13:30</td>
<td>①-1さよならバーティーの準備をしよう！</td>
</tr>
<tr>
<td>13:30</td>
<td>①-2さよならバーティーを楽しもう！</td>
</tr>
<tr>
<td>19:00</td>
<td>②キャンプファイヤーで страり上がりろう！</td>
</tr>
<tr>
<td>20:30</td>
<td>③シャワータイム／ドラム音楽会</td>
</tr>
<tr>
<td>21:30</td>
<td>おやすみなさいの準備／山の家で就寝</td>
</tr>
</tbody>
</table>

エワしたポイント
1. グループ（宿泊やキャンプ全体の仲間）に想定したプログラム（さよならバーティー）を計画しました。
2. さよならバーティーでは、これまで行ってきた野生動物・グループ活動の集大成を見せる場と想定しました。
3. キャンプファイヤーの後に、グループととなりの火を楽しみ、仲間を楽しむ機会を持ちました。

ロストビュー、ハングリー、魚の橋頭、ミートスパゲティ、つくね三つそれぞれがレストランに出るほど完成度でした。

第2日目対象の食材をスーパーマーケットで購入して卷き起こります。

開催〜！

開放中の日：参加者の声より
「ロストビューで行ったことが心残る。」「カラオケを行うのが心残る。」「参加者の皆さんについても心残る。」

2日目 天候：晴れ 後日雨 活動場所：京小山の家

<table>
<thead>
<tr>
<th>時間</th>
<th>内容</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>6:00</td>
<td>起床</td>
</tr>
<tr>
<td>6:30</td>
<td>茶のつどい</td>
</tr>
<tr>
<td>7:00</td>
<td>朝ご飯を食べよう！</td>
</tr>
<tr>
<td>7:45</td>
<td>④来たときよりもキレイにしよう！(除草)</td>
</tr>
<tr>
<td>8:30</td>
<td>パスで京都教育大学へ移動</td>
</tr>
<tr>
<td>10:00</td>
<td>到着 ①保護者のための野外授業講座</td>
</tr>
<tr>
<td>13:30</td>
<td>①お昼ご飯を食べよう！</td>
</tr>
<tr>
<td>14:15</td>
<td>②キャンプで強かったことを発表する会</td>
</tr>
<tr>
<td>15:45</td>
<td>さようならの会</td>
</tr>
<tr>
<td>16:00</td>
<td>解散</td>
</tr>
</tbody>
</table>

エワしたポイント
4. 保護者にも野外授業を体験する機会を設けるために、保護者のための野外授業講座を行いました。
5. 参加者の最後の野外授業では、これまでの成果を発表できるよう、野外授業講座に参加した保護者の近くで「ネクストチャレンジ」を宣言しました。
6. 保護者の報告会を行いました。
7. キャンプの最後には、次の活動につなげるために、グループの仲間に保護者の方に「ネクストチャレンジ」を宣言しました。

保護者のアンケート

第3回キャンプ後の方々の声はいかがですか？

参加者の声より
「夜はリラックスした夜となり、朝を楽しみに待っていました。」

保護者の声より
「子供たちと一緒に自然を楽しみ、自然と交流する機会を持ちました。」

保護者のアンケート

「次回キャンプ前の後日雨の日はいかがですか？」

保護者の声より
「夜はリラックスした夜となり、朝を楽しみに待っていました。」

保護者のアンケート

「次回キャンプ前の後日雨の日はいかがですか？」

保護者の声より
「夜はリラックスした夜となり、朝を楽しみに待っていました。」
調査概要 ～参加者・保護者の不安の実態と広報用チラシの効果～

本事業における仮説（1ページ参照）を検証するために、下記の調査を実施しました。本キャンペーンの主な参加対象である自然体験への参加経験が少ない少子化や保護者が Ryzen に参加する際には、どのような不安があるのか、そしてその不安をどのように変化していたのか、アンケート調査の結果や参加者・保護者の記述から明らかにしたいと思います。

また、キャンペーンに参加したきっかけは、チラシのどこに注目をしたかについて調査も実施しました。キャンペーンへの参加決定のために必要な項目は何か、今後、キャンペーンへの参加者を増やしていくためには検証をしています。

<table>
<thead>
<tr>
<th>表 1</th>
<th>調査項目一覧</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>項目</td>
<td>調査対象</td>
</tr>
<tr>
<td>1</td>
<td>キャンプ参加に対する不安と期待</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>キャンプ参加に対する不安</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>キャンプ参加に対する期待</td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
<td>調査対象</td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
<td>調査対象</td>
</tr>
<tr>
<td>6</td>
<td>締め切りの日時</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>表 2</th>
<th>調査対象</th>
<th>項目</th>
<th>項目</th>
<th>項目</th>
<th>項目</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>参加者</td>
<td>調査</td>
<td>参加者</td>
<td>調査</td>
<td>参加者</td>
<td>調査</td>
</tr>
<tr>
<td>1</td>
<td>キャンプ参加</td>
<td>2</td>
<td>チラシ</td>
<td>3</td>
<td>チラシ</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>期待</td>
<td>4</td>
<td>不安</td>
<td>5</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>期待</td>
<td>6</td>
<td>不安</td>
<td>7</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
<td>期待</td>
<td>8</td>
<td>不安</td>
<td>9</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
<td>期待</td>
<td>10</td>
<td>不安</td>
<td>11</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>6</td>
<td>期待</td>
<td>12</td>
<td>不安</td>
<td>13</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>7</td>
<td>期待</td>
<td>14</td>
<td>不安</td>
<td>15</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>期待</td>
<td>16</td>
<td>不安</td>
<td>17</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>9</td>
<td>期待</td>
<td>18</td>
<td>不安</td>
<td>19</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>10</td>
<td>期待</td>
<td>19</td>
<td>不安</td>
<td>20</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>11</td>
<td>期待</td>
<td>20</td>
<td>不安</td>
<td>21</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>12</td>
<td>期待</td>
<td>21</td>
<td>不安</td>
<td>22</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>13</td>
<td>期待</td>
<td>22</td>
<td>不安</td>
<td>23</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>14</td>
<td>期待</td>
<td>23</td>
<td>不安</td>
<td>24</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>15</td>
<td>期待</td>
<td>24</td>
<td>不安</td>
<td>25</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>16</td>
<td>期待</td>
<td>25</td>
<td>不安</td>
<td>26</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>17</td>
<td>期待</td>
<td>26</td>
<td>不安</td>
<td>27</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>18</td>
<td>期待</td>
<td>27</td>
<td>不安</td>
<td>28</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>19</td>
<td>期待</td>
<td>28</td>
<td>不安</td>
<td>29</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>20</td>
<td>期待</td>
<td>29</td>
<td>不安</td>
<td>30</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>21</td>
<td>期待</td>
<td>30</td>
<td>不安</td>
<td>31</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>22</td>
<td>期待</td>
<td>31</td>
<td>不安</td>
<td>32</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>23</td>
<td>期待</td>
<td>32</td>
<td>不安</td>
<td>33</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>24</td>
<td>期待</td>
<td>33</td>
<td>不安</td>
<td>34</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>25</td>
<td>期待</td>
<td>34</td>
<td>不安</td>
<td>35</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>26</td>
<td>期待</td>
<td>35</td>
<td>不安</td>
<td>36</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>27</td>
<td>期待</td>
<td>36</td>
<td>不安</td>
<td>37</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>28</td>
<td>期待</td>
<td>37</td>
<td>不安</td>
<td>38</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>29</td>
<td>期待</td>
<td>38</td>
<td>不安</td>
<td>39</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>30</td>
<td>期待</td>
<td>39</td>
<td>不安</td>
<td>40</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>31</td>
<td>期待</td>
<td>40</td>
<td>不安</td>
<td>41</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>32</td>
<td>期待</td>
<td>41</td>
<td>不安</td>
<td>42</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>33</td>
<td>期待</td>
<td>42</td>
<td>不安</td>
<td>43</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>34</td>
<td>期待</td>
<td>43</td>
<td>不安</td>
<td>44</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>35</td>
<td>期待</td>
<td>44</td>
<td>不安</td>
<td>45</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>36</td>
<td>期待</td>
<td>45</td>
<td>不安</td>
<td>46</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>37</td>
<td>期待</td>
<td>46</td>
<td>不安</td>
<td>47</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>38</td>
<td>期待</td>
<td>47</td>
<td>不安</td>
<td>48</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>39</td>
<td>期待</td>
<td>48</td>
<td>不安</td>
<td>49</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>40</td>
<td>期待</td>
<td>49</td>
<td>不安</td>
<td>50</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>41</td>
<td>期待</td>
<td>50</td>
<td>不安</td>
<td>51</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>42</td>
<td>期待</td>
<td>51</td>
<td>不安</td>
<td>52</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>43</td>
<td>期待</td>
<td>52</td>
<td>不安</td>
<td>53</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>44</td>
<td>期待</td>
<td>53</td>
<td>不安</td>
<td>54</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>45</td>
<td>期待</td>
<td>54</td>
<td>不安</td>
<td>55</td>
<td>不安</td>
</tr>
<tr>
<td>46</td>
<td>期待</td>
<td>55</td>
<td>不安</td>
<td>56</td>
<td>不安</td>
</tr>
</tbody>
</table>

結果1 キャンプ参加に対する不安の実態 ～参加者・保護者はどんな不安を抱えているのか～

事前に参加者・保護者から集めた「参加者記録シート」におけるキャンプ参加に対する不安についての記述から、調査項目を選定し、調査用紙を作成しました。17日間のキャンプに、参加者が保持し、調査用紙で調べ、キャンプ後を記録していただくことになりました。記録は、行った結果、得られた表3、表4、表5のとおりとなりました。

参加者・保護者ともは「初めて会う人や仲良く活動すること」、「自分が考えているわけではないが、活動すること」、「友達ができるかどうか」、「お友達を作るか」といった項目は、参加者・保護者がキャンプ参加に対する不安を感じていることを示すとされています。

参加者・保護者の不安は、自身の活動に対する期待が大きいことであり、参加者・保護者の意見を分析してみましょう。

参加者・保護者からは、キャンプ参加に対する不安の実態を以下のように分析しています。

「自分たちが楽しむことが伝わるか」「保護者が不安に思っているか」「担当者との関係がうまくいかないか」など、このような不安は、保護者が私たちはどの程度安心して参加できるのか不安を感じることを示しています。

ここから、参加者・保護者の不安を抱えていることをみることができ、参加者・保護者の不安の実態を明確にすることが必要であると考えられます。
分析について、保護者の回答をもとに注目した箇所から分けています。集計方法については、前ページの図と表を参照ください。

以下の2点です。「日程」や「会場」や「参加人数」については、保護者のみの回答に基づきます。保護者の回答に基づき、集計結果については、前ページの図と表を参照ください。

1. **どんな体験ができるのか、どんな指導者なのかが重要である！(C:内容)**
   - 「活動内容で満足していないことがある」
   - 「家庭の生活で難しい体験ができること」
   - 「指導者が明記されていたので、安心感を持っています」
   - 「保護する予定の子供と、体験してほしいことのあるもの」
   - 「保護者が明記された状況は、注目されている」
   - 「必要がなかった」
   - 「必要がなかった」

2. **事件のスケジュールで参加者の不安が軽減される！(D:事業者)**
   - 「キャンプ期間中で参加者の不安が軽減される」
   - 「キャンプ期間中で参加者の不安が軽減される」
   - 「キャンプ期間中で参加者の不安が軽減される」

図 チャレンジ！はじめてのキャンプ 参加者募集チラシの注目箇所

<table>
<thead>
<tr>
<th>区分</th>
<th>被験者数</th>
<th>備考</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>A</td>
<td>200</td>
<td>回答者数118</td>
</tr>
<tr>
<td>B</td>
<td>150</td>
<td>回答者数70</td>
</tr>
<tr>
<td>C</td>
<td>100</td>
<td>回答者数30</td>
</tr>
<tr>
<td>D</td>
<td>50</td>
<td>回答者数20</td>
</tr>
<tr>
<td>E</td>
<td>30</td>
<td>回答者数10</td>
</tr>
<tr>
<td>F</td>
<td>20</td>
<td>回答者数5</td>
</tr>
<tr>
<td>G</td>
<td>10</td>
<td>回答者数2</td>
</tr>
<tr>
<td>H</td>
<td>5</td>
<td>回答者数1</td>
</tr>
</tbody>
</table>

※3 条件は「回答者数」を含むことに注意。基準7点までの回答は1点、7点以上の回答は2点、3点以下の回答は0点、1点の回答を基準に、7点を2点として、集計した。
ま と め

本事業は、主に自然体験への参加経験が少ない青少年や保護者を対象として、都市部の青少年が利用しやすい近隣のフィールドで非日常的な体験を繰り返し体験することにより、日常的な活動につなげていくことを目的したモデルプログラムの開発を目的として実施しました。

事業を実施する際には参加者の不安を軽減し、効果を高める様々なモデルとなる取り組みを行いました。青少年の体験を普及していくためには、保護者の理解が欠かせません。モデルとなる取り組みとして保護者を対象とした取り組みも積極的に行いました。

その一つが「保護者向け野外放棄講座の実施」です。

・子供と同じ体験をするという事は、なかなか意識出来ないものだと実感しました。子供の話を聞くことも楽しい気分になりましたが、実際に体験することで「あの、このことを言ってたのか！」と聞いた話がより深まり、そして、自分自身もとても楽しい活動するチャンスをいただけたと思います。（保護者アンケート）

・ふだんの生活の中ではなかなかできない親子での共通体験の機会を提供していくことは、体験活動に対する理解を深めるために、大きな意味を持つことだと感じました。

また、「参加者記録シートの活用」や「活動記録シートでの情報共有」も行いました。

・親の思いを聞いて下さる為のシートに、親もキャンプ参加者扱いでくれてるんだなと思った。（参加者記録シートに対する保護者のコメント）

・キャンプの様子や出来事が記入されており、それをもとに子供とキャンプの話をする事ができ、大変良かった。（活動記録シートに対する保護者のコメント）

参加者というと子供たちのみを想定しがちですが、日常的な活動につなげることには、保護者の理解を深めることが重要であると考えます。そのためには、参加者である子供と保護者が一緒になって活動に取り組み、子供の気持ちを保護者も体感することが効果的であることが示唆されました。

参加者も保護者も様々な不安をいただきながら、本事業のようなイベントに参加してきます。その不安を大きな成果につなげられる仕組みを今後も検討していきたいと思います。

本事業には定員の30名を超える47名の申込をいただきました。本事業が無事に実施できたのも、昨年度に引き続き活動に支援をいただいた京都教育大学の職員や学生ボランティアの協力のおかげだと思います。

今後も参加者や保護者からいただいた多くの声に応えられるよう、より充実した取り組みを目指していきたいと思います。